

令和5年度 学校評価表(計画・中間 **最終**)
【4月末・11月・3月初旬】

学校名(熊野町立熊野中学校)

a 学校教育目標	「前向き (Be positive.)」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	心豊かで確かな学力を備えた教育の推進 地域に開かれ、地域の期待に応え、地域から信頼される学校の創造 地域を愛し、地域から愛され、地域に生きる子どもの育成
-------------	----------------------	-------------------------	--

評価計画(4月末提出)						自己評価				学校関係者評価			n改善方策		
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 達成値	i 達成度	j 評価 A~D 4段階 評価	k 結果と課題の説明 (短期経営目標についての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	11月	2月	
					10月	2月			イ 適正	ロ 不適正	ハ 分からない				
自己認識、自分の進路選択、表現ができる	【知】 自己表現できる生徒の育成 ~学力の定着と自らを語る生徒~	○確かな学力の定着・標準学力調査で県平均・全国平均以上(各教科)	○全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果及び内容を意識した、日常の授業を展開する。 ・各学年各教科の現状の把握と課題を明確にする。 ・各教科において、課題解決の方策と目標を明確に持つ。	○町学力調査の結果 各教科県・全国平均以上	全国平均	85.2%	98.7%	98.7%	B	(町内学力調査の結果から) ・1学年においては、全国平均を全教科上回り、おおむね良好な状況と言える。中でも理科は昨年度の同一集団の標準スコアを上回った。 ・2学年においては、全国平均を国社理が上回り、全体的にはおおむね良好な状況と言える。社理が昨年度の同一集団の標準スコアを上回った。 ・3学年においては、全国平均を全教科上回ることが出来なかった。しかし、国数英が昨年度の同一集団の標準スコアを上回った。 ※今年度は基礎基本的な内容の定着に注力したため、「知識・技能」の観点では向上が見られる。しかし、応用的な内容がまだ不十分であるため、全体を見通した、活用能力向上の取組が必要である。	7			・国数英においては、学テの結果の分析から課題を割り出し、改善に向けて引き続き取り組む。 ・それ以外の教科も夏休みの研修以降、課題解決に向けて、基礎基本的な内容の定着を図っているため、取組を継続する。 ・学力に課題のある生徒に対して、コミュニティスクールの一環としての放課後学習の取組を考えていく。	・実力テストなどを実施して、客観的なデータを収集する。 ・今後も全国平均を上回るために様々な調査の分析を行い、指導の課題を明らかにし、対策を続けていく。 ・学力に課題のある生徒に対して、コミュニティスクールの取組を考えていく。
		○自分を語る表現力・自信をもって、自分について語る、自分の考えを語る生徒の割合80%以上。	○各教科・領域等において、自分の考えをもたせる、語らせる、表現させる等の取組の工夫	○表現力に係る生徒の意識調査(肯定的評価)	80%	74.9%	75.6%	94.7%	B	・年間を通して全教職員で研究授業を参観・協議したことにより、教員の表現力の指導に係る意識調査の結果は肯定的評価が9月の73.6%から88.3%に上昇した。 ・わずかではあるが生徒の表現力に係る意識調査の結果も74.5%から75.6%に上昇した。しかし、目標値(80%)を上回ることができなかった。 ・数値は伸び悩んでいるが、取組を行う中で、根拠を明確にした発言ができるようになったり、相手に伝わる表現を吟味したりするなどの姿が見られるようになった。そのため、表現することに対する生徒の意識は6月と比べて明らかに変化している。このように、生徒一人一人の具体的な姿を見取りながら実態把握に努め、次年度も取組を継続する。	7			・教科の特性を生かしながら、引き続き、授業内で生徒が表現する場を設定する。その際、教員や生徒同士による肯定的な評価を行う機会を設けて自信がつくようサポートしていく。 ・HRでの自己表現タイムにおいて担任を中心に評価し、表現力を育成していく。 ・3年生の公立高入試に向け、模擬面接の機会を通して、表現の場を設定するとともに自分についてしっかり語ることができるよう指導する。	・引き続き、様々な教育活動で生徒が表現する場を設定し、表現力を育成していく。 ・教員からの評価だけでなく生徒同士の相互評価を推進し、相手意識をもたせていく。 ・研究部を中心に校内研修を充実させ、教員の意識や指導力の向上を図る。
豊かな心	【徳】 ①豊かな心 ◆ア:PPG イ:レベル5のあいさつ ◆ウ:無言移動 エ:無言清掃 オ:靴揃え	○自ら元気なあいさつ	○全体指導、学級指導、個々の指導を意図的につなげる。 ○日常の活動における指導と評価の一体化。	○学校生活での生徒の様子、生徒の意識調査及び地域の声をもとに教師が評価(肯定的評価)	80%	80.4%		105%	A	【ア 学習の姿勢(PPG)】 全体的にはよくできているが、「PPG」という言葉を生かした指導は不十分であった。 【イ レベル5のあいさつ】 十分な姿とはいえない。目的意識をもって粘り強く指導しきることができなかった。 【ウ 無言移動】 意義を全校で共有し目的意識をもって取り組むことができた。全校集会では朝8時15分の集合完了が全クラスできるようになっている。 【エ 無言清掃】 清掃の場所によって差があるものの、全体として意識は高まっており、生徒の動きも良くなった。 【オ 靴揃え】 よくできている。 【その他】 「①学校に行くのが楽しい」や「②自分には良いところがある」の項目の肯定的評価の割合が増えた。(①80.7%→86.9% ②71.7%→75.6%)	7			・あいさつ・無言清掃とも委員会が中心となって前向きに取り組む。委員会の取組が成果につながるようにするためにも、教師が規範となることや取組の意義を伝えることを継続する。 ・取組の成果や課題を明確にするために、生徒、教職員だけでなく保護者や地域の方にも評価していただく。できていることとそうでないことを生徒にわかりやすく伝えながら、指導を継続する。	・引き続き、指導と評価一体化および、全体指導と学級指導のつながりを大切にしながら指導を行う。 ・4月の最初の1週間、全教職員でレベル5のあいさつを指導していく。その際、目指す姿を明確にし、教師と生徒が共通認識をもって取り組む。 ・PPGを全教職員の合言葉にし、様々な場面で気持ちの切り替えを上手にさせる。

j評価 A~D 4段階評価
A: 100≦(目標達成)
B: 80≦(ほぼ達成)<100

C: 60≦(もう少し)<80
D: (できていない)<60